

若者の成長をささえる

～ユースワークとは何か(基礎理解)～

横浜青少年指導者基礎研修2023

ユースワーカー協議会
水野 篤夫

ユースワーカー協議会

- 2019年に全国の若者と関わる実践者の、活動基盤強化を目指して設立しました。
- 各地でユースワーカー養成講習を実施
 - 横浜・京都・名古屋・広島で実施（神戸・尼崎で予定）
 - 他エリアでも開催することを目指しています
- ユースワーカーの実践交流
 - 実践交流サロン（オンライン）の開催
 - 「勉強会」や現場ワーカーの交流企画も
- ユースワーカーの研修の場づくり
 - スタッフ相互研修・SVの仕組みづくり

日本における若者に関わる実践～その推移～

①非行対策

②勤労青少年(青年)対策としての施策

- ◆「青年学級」や教育委員会の学習事業
 - ◆青年団や公民館を中核とした青年教育や活動
 - ◆勤労青少年ホームの設置
- だんだん参加を得られなくなって衰退＝高学歴化

③青少年教育・育成施策

- より年少の子どもを対象とした学校外の諸活動
- ◆青少年健全育成活動の全国展開(1960年代から)
 - ◆子ども会・スポーツ少年団・ボーイスカウトなど民間の活動
 - ◆野外教育施設などでの取組

1980年代～90年代

④「社会参加論」の登場(70年代半ば以降)

◆全国規模の育成団体の隆盛と80年代以降の衰退

⑤不登校と居場所というキーワード(90年代～)

➤登校拒否はどの子にも起こる…学校を心の居場所に(92年)

⑥若者支援施策

◆「フリーター問題」や若者の就職難を巡る問題

◆就職支援→総合的な若者支援へ

➤「ニート」問題

➤ひきこもる若者を巡る問題

2000年～2010年以降

⑦「子ども若者育成支援推進法」(2010年施行)

⑧子ども(若者)の貧困というテーマ(2008年)

→「子ども食堂」「学習支援」の広がり

→「生活困窮者支援」や「孤立対策」との関わり

⑨18歳成年制への流れと対応

→2016年 18歳選挙権へ

→2022年 18歳成年制施行

⑩こども家庭庁の設置とこども基本法

2. 青少年活動・団体の動き

◆ 1950年代

- 戦前・戦中に解体された青少年団体が次々と復活してくる。また新しい理念の青少年団体も結成されてくる。
- 青年団／ボーイスカウト・ガールスカウト
- 4Hクラブ／ユースホステル

◆ 1960～80年代

- スポーツ少年団の結成や、全国子ども会連合会の結成などとともに、団体構成員は増大していく。
- 全国規模の青少年団体の多くは80年代に会員数のピークを迎える。
- フリースクールの登場(1985年:東京シューレ開設)

◆ 1990年代

- 団体の活動にかげりが見え始め、多くの団体が会員数、参加者数を減少させていく。子どもや青年の集団離れ、組織離れが指摘される。
- 「忍耐、団結、奉仕といった価値から日本社会全体が離れつつあった。したがって、子どもたちにとってもそれらの価値自体が色あせたものであり、…あえて選択するものとはなりにくかった。」

田中治彦『子ども・若者の居場所の構想』2001年、P19

◆2000年代

就労支援や自立支援の団体の活躍

➤ 伝統的青少年団体の低迷

集団活動による社会性の開発や、対人関係能力を伸ばすこと、野外などでの冒険的な活動の機会の提供といった、全国規模の青少年団体の活動は、多く規模を縮小を迫られ、新たな活動の転換を模索している。

➤ 子どもや若者の「集団離れ」への対応として

→「居場所」作りの提案と一般化

➤ 自立支援の活動・団体→行政事業の「受け皿」(受託者)としてのNPO

➤ 就労支援に取り組む活動(NPOを中心とする)の広がり

育て上げネット／文化学習協同ネットワーク／佐賀SSF 等

これから(2010年代以降)・・・？

- 居場所づくりの支援→？
- 職業的自立支援／就労支援→中間就労の場・社会的労働の場
- 「ひきこもり」の問題→有効な支援方法の確立という課題
- 子ども・若者の「貧困」との関わり→「子ども食堂」の拡がり
- 社会格差の拡大？(階級社会化)→若者の分断
- 若者の「孤立」
- 世代間の利害の齟齬(例えば:年金や社会保険負担を巡って)

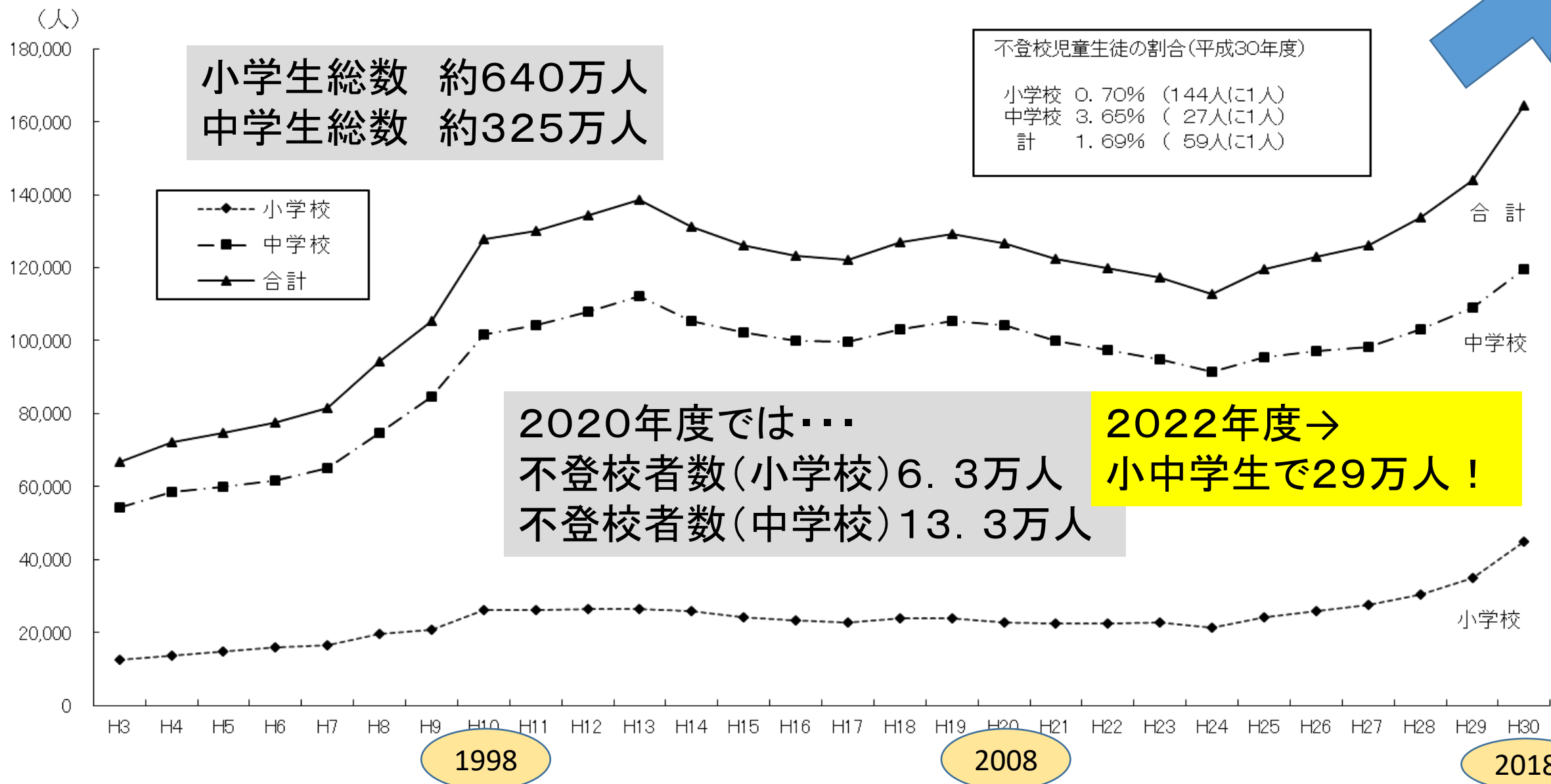
日本の若者が置かれている実情～なぜ若者
に関わるのか？～

(その1)

学校を中心とする世界の問題

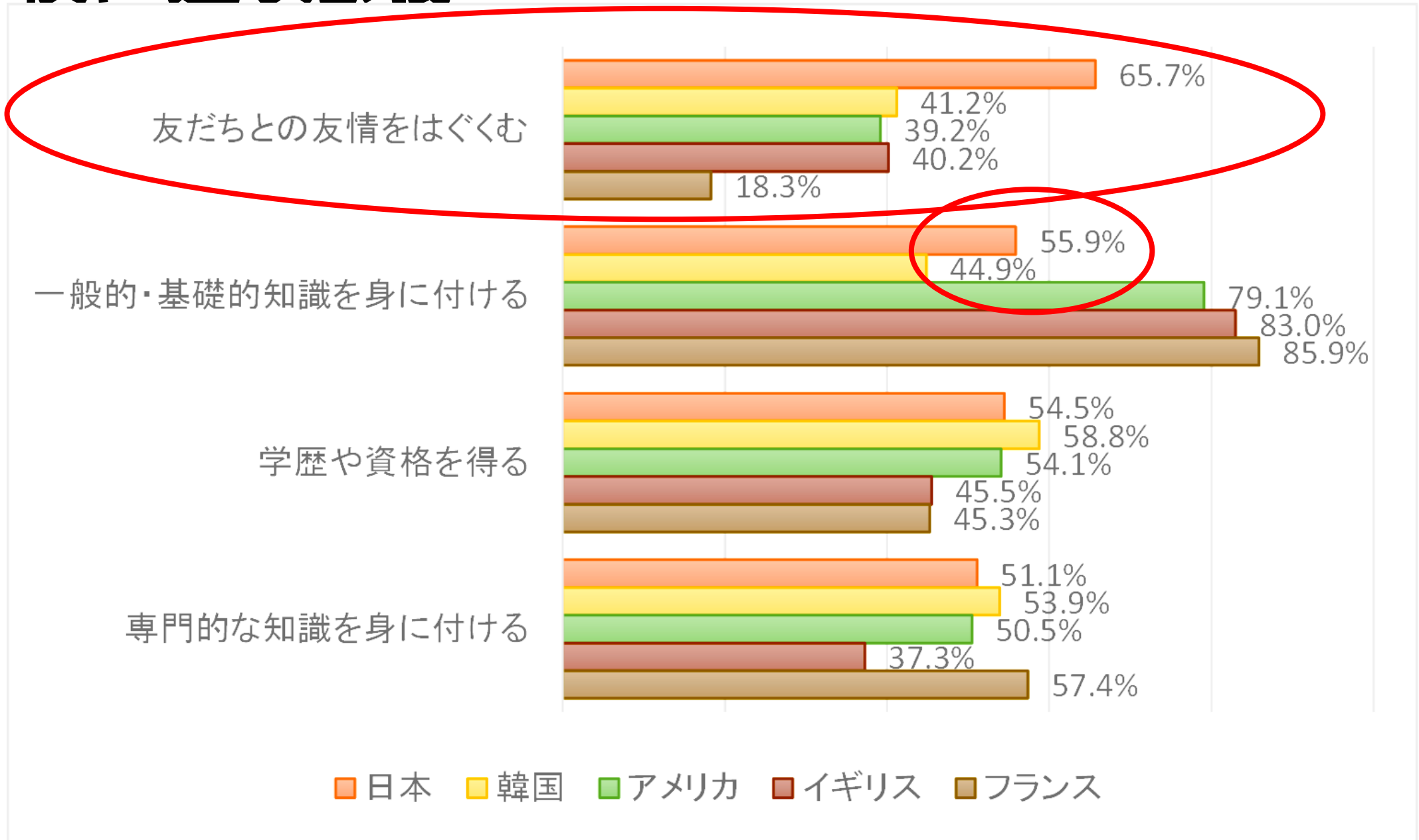
「学校が楽しいかどうかは運次第」?

小中学校での不登校者数(推移)



学校に通う意義

内閣府「第8回世界青少年意識調査」(2008年)から

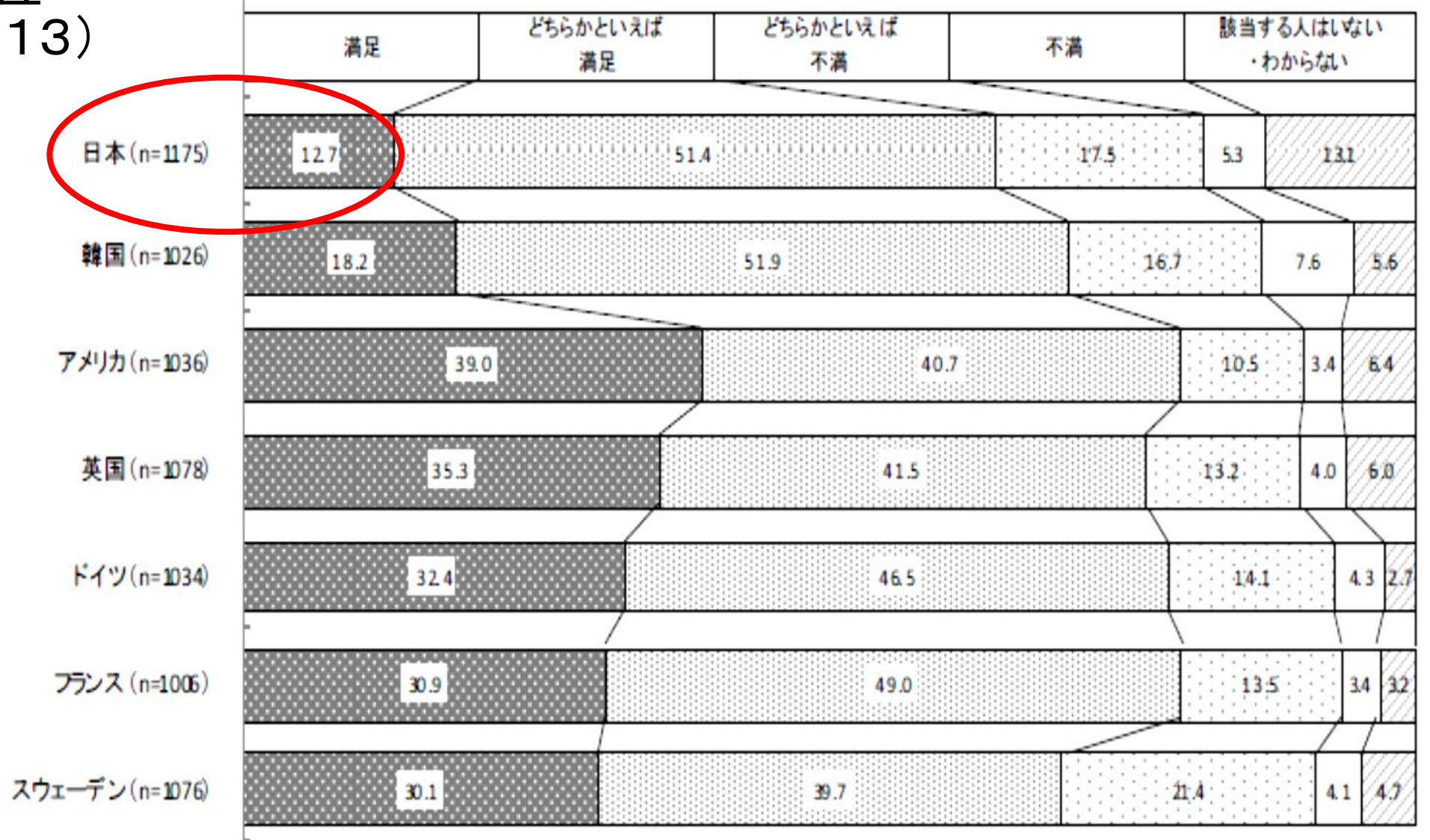


我が国と諸外国の若者の意識調査 (内閣府H25/2013)

(1) 友人

Q11 あなたは、友人との関係に満足を感じていますか、それとも不満を感じていますか。
あてはまるものを1つ選んでください。(回答は1つ)

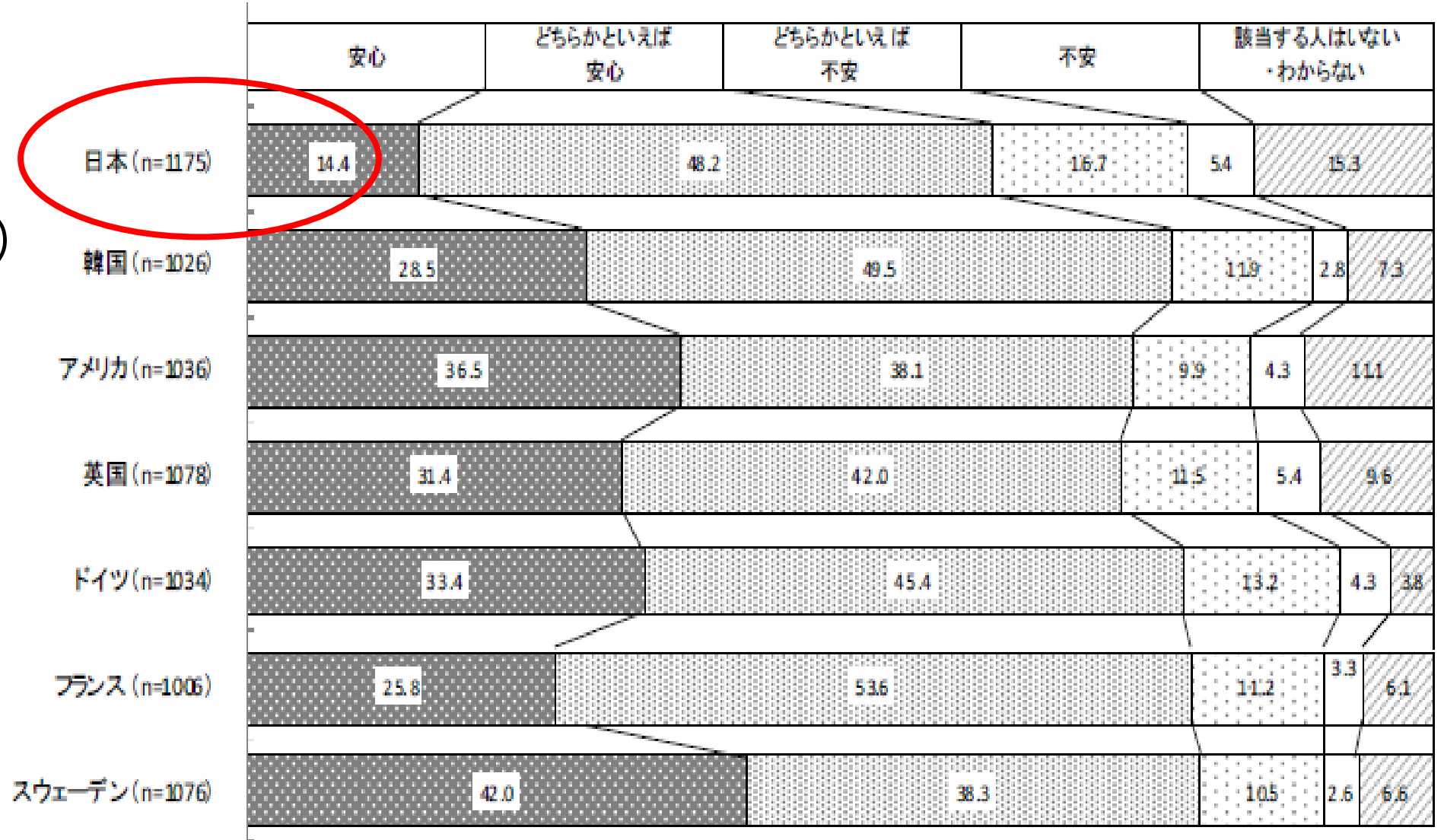
6. 友人関係 (満足度)



我が国と諸外国の若者の意識調査 (H25/2013)

Q12 あなたは、友人との関係に安心感を覚えますか、それとも不安を感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。(回答は1つ)

6. 友人関係 (安心・不安)

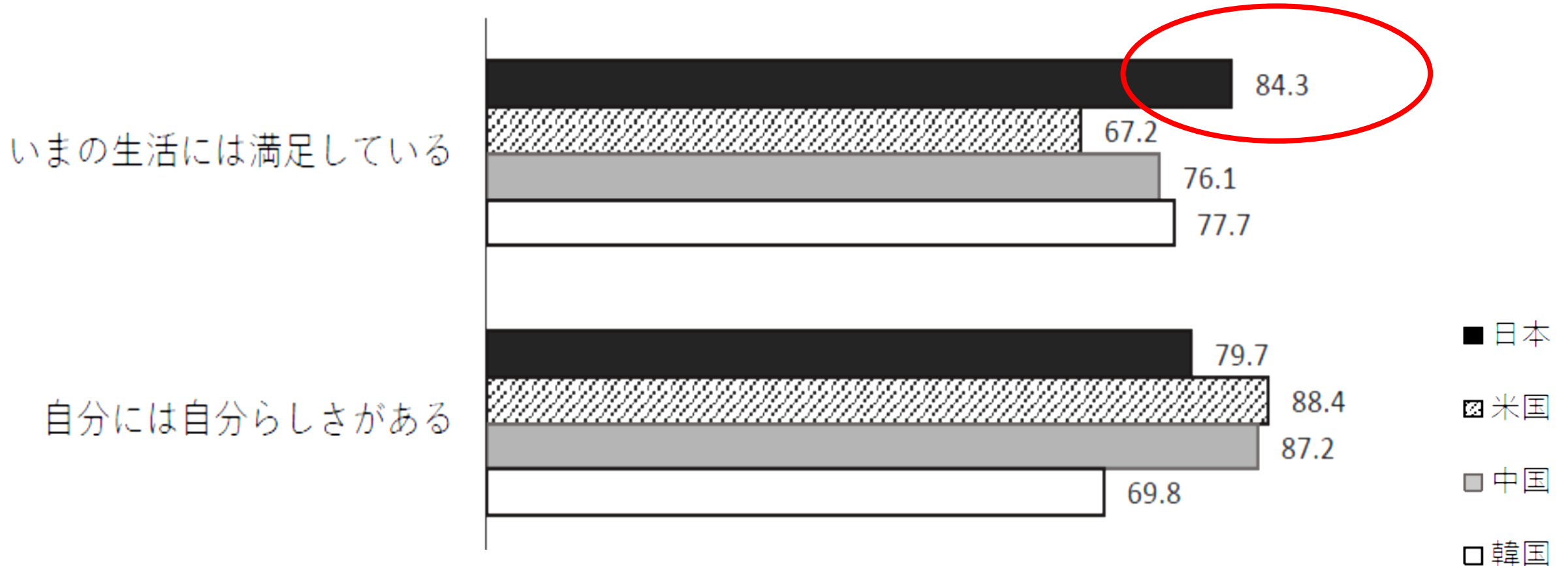


日本の若者が置かれている実情(その2)

子どもや若者の生きづらさと幸福度

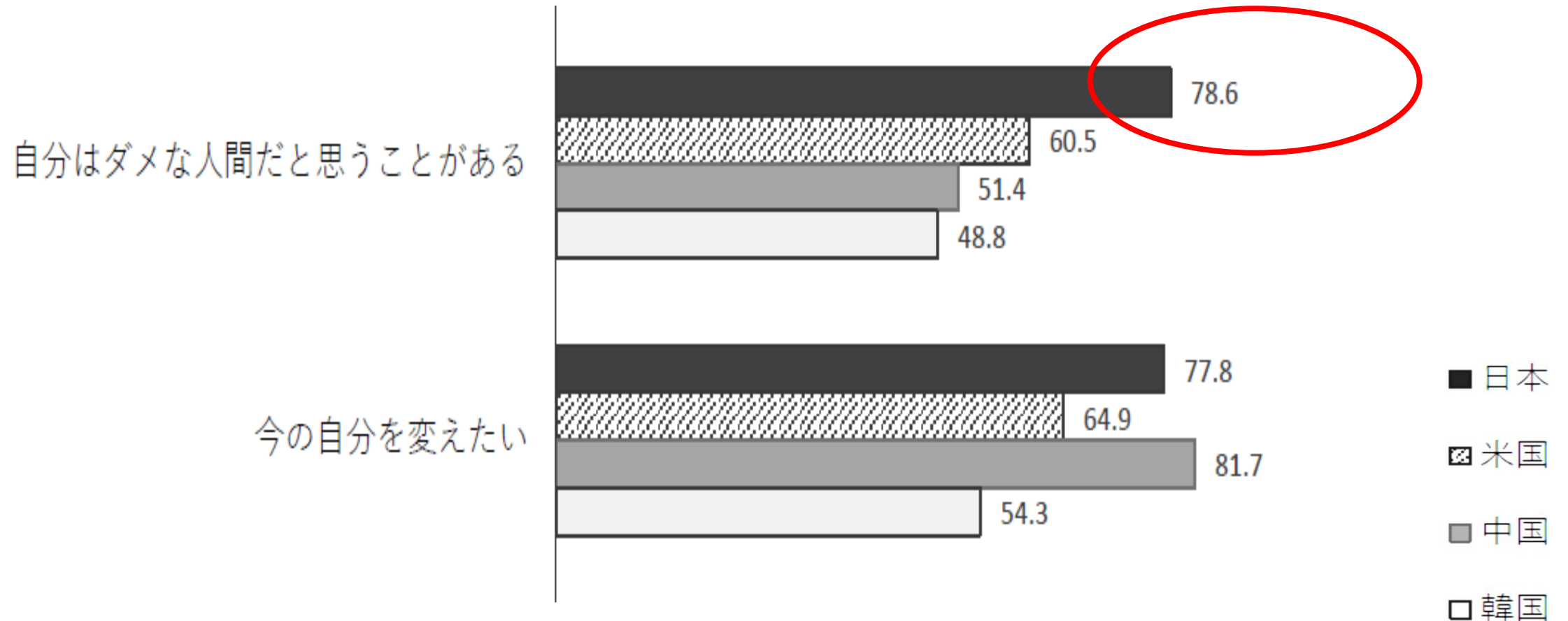
高校生の進路と職業意識に関する調査報告書より その1

—日本・米国・中国・韓国の比較— (国立青少年教育振興機構2023)



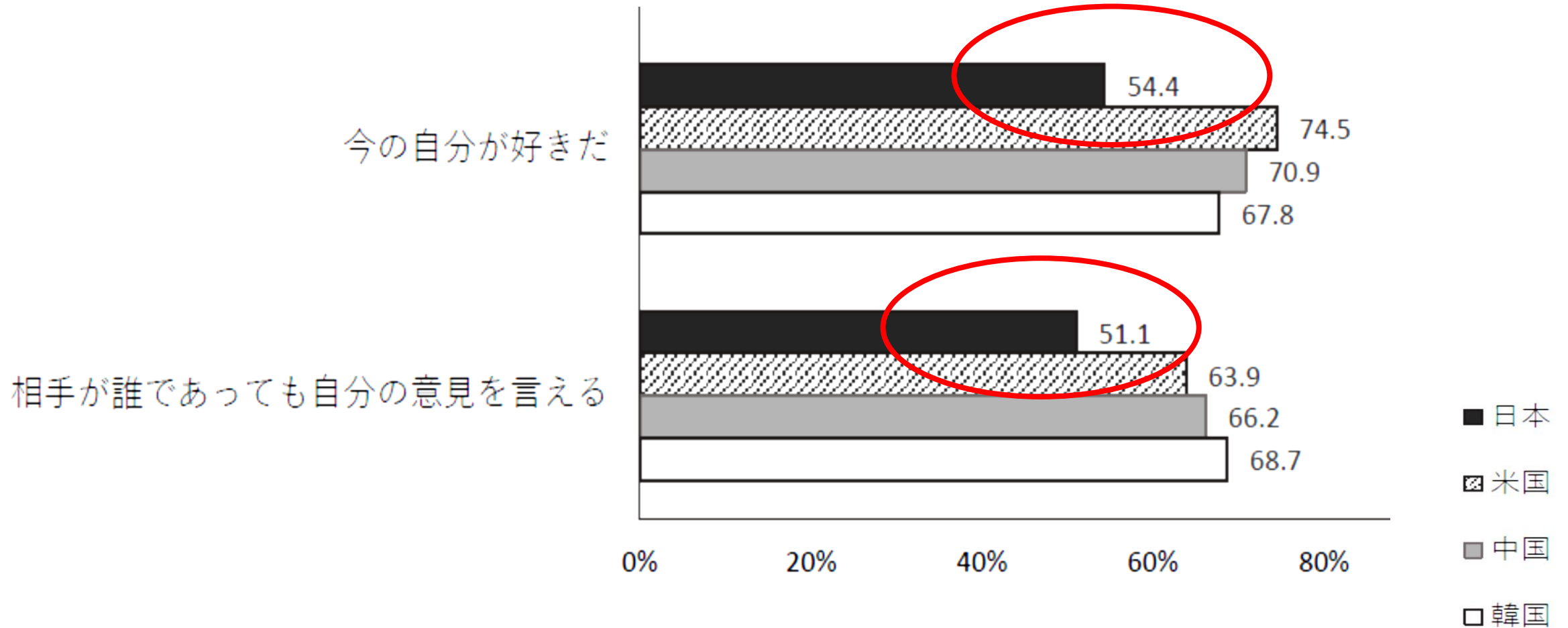
高校生の進路と職業意識に関する調査報告書より その2

—日本・米国・中国・韓国の比較— (国立青少年教育振興機構2023)



高校生の進路と職業意識に関する調査報告書より その3

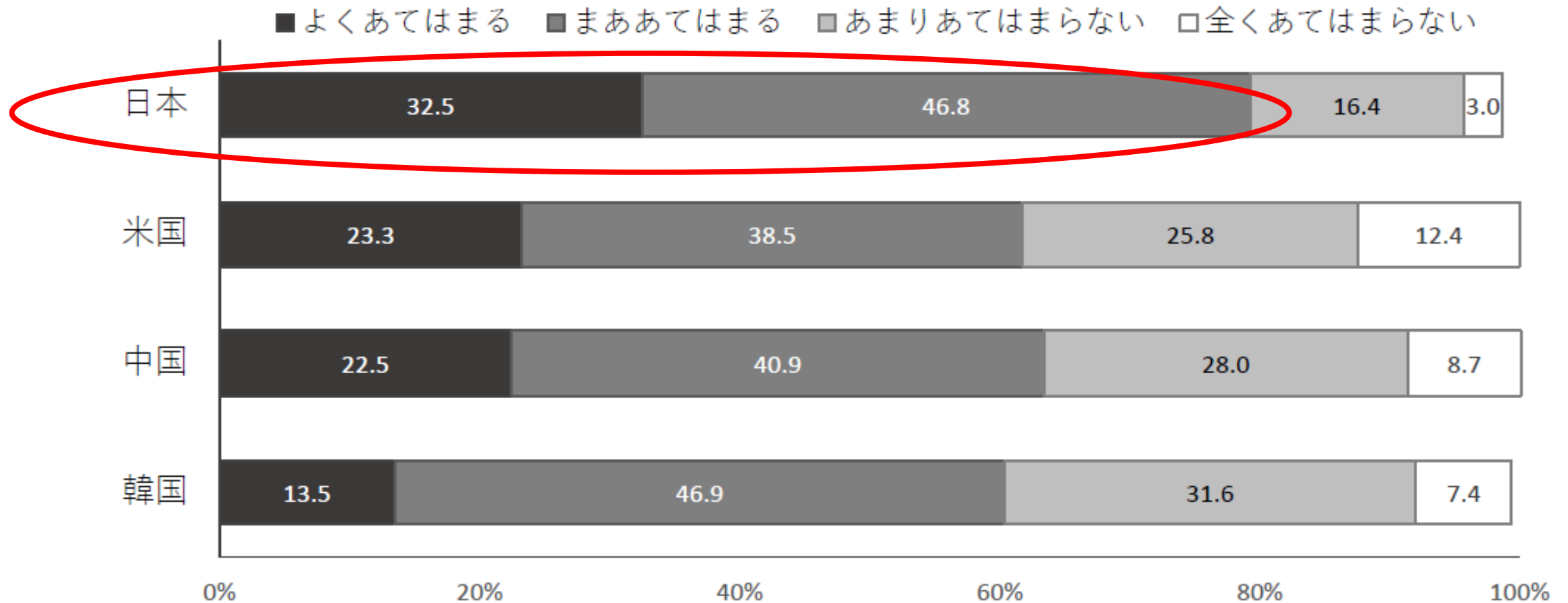
—日本・米国・中国・韓国の比較— (国立青少年教育振興機構2023)



高校生の進路と職業意識に関する調査報告書より その4

—日本・米国・中国・韓国の比較— (国立青少年教育振興機構2023)

自分の将来に不安を感じている(図4-4)



子どもや若者の幸福度

表1 使用されている指標

総合 (日本の順位)	項目 (日本の順位)	指標	使用データ
精神的幸福度 (37位/38カ国)	生活満足度 (32位/33カ国)	15歳時点での、生活満足度が高い子どもの割合	PISA 2018年
	青少年期の自殺 (30位/41カ国)	15歳から19歳の自殺率（自殺率が低い順）	WHO2015年
身体的健康 (1位/38カ国)	子どもの死亡率 (9位/41カ国)	5歳から14歳の子どもの死亡率（死亡率が低い順）	国連IGME2018年
	体重過多 (1位/41カ国)	5歳から19歳の体重過多の子どもの割合（体重過多の子どもが少ない順）	ユニセフ2016年
スキル (37位/38カ国)	学力 (5位/39カ国)	15歳時点での数学と読解の基礎学力の達成率	PISA 2018年
	社会的スキル (39位/40カ国)	15歳時点での学校で友達ができやすいと回答した割合	PISA 2018年

※総合順位は少なくとも5つの指標について十分な質のデータがある38カ国について出している

日本の若者が置かれている実情(その3)

働く場や働き方の変化
＝非正規雇用と若者

正規雇用と非正規雇用それぞれの平均年収及び 非正規雇用の人年代毎の割合

男性



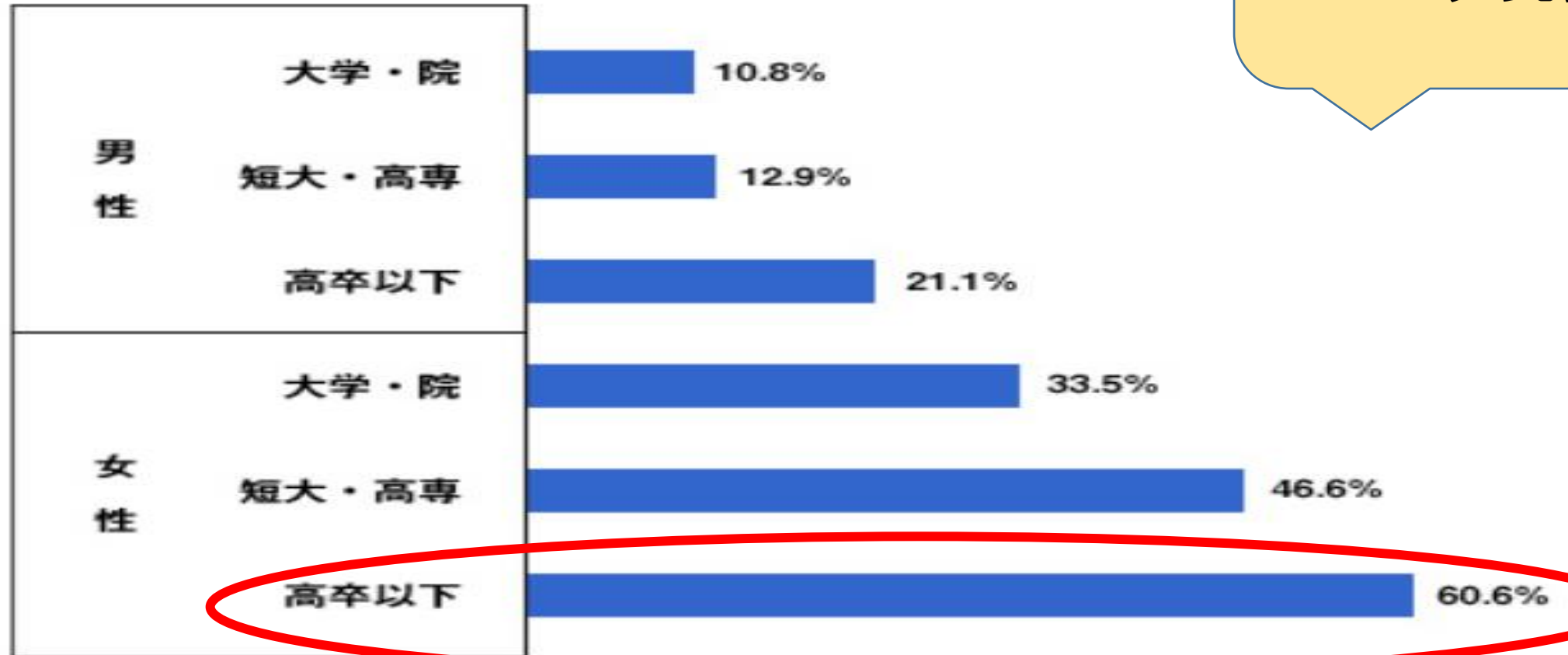
正規雇用と非正規雇用それぞれの平均年収及び 非正規雇用の方の年代毎の割合

女性



非正規雇用者の現状(学歴別)

【図6】 学歴×性別非正規率



若者の分断
という現実

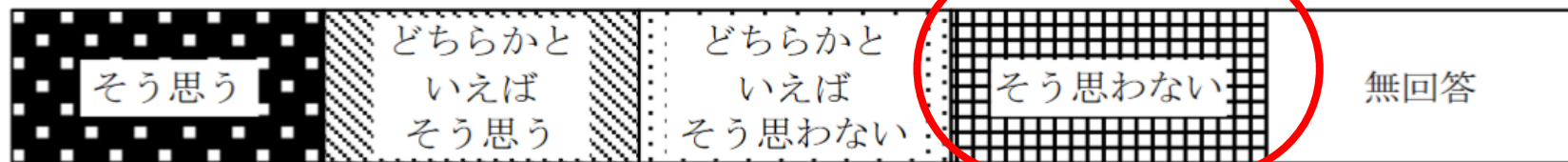
日本の若者が置かれている実情(その4)

子どもや若者にとっての「居場所」

子どもや若者の居場所認識

(問い) 次の場所はあなたにとって居場所になっていますか

(n=1,926)



自分の部屋



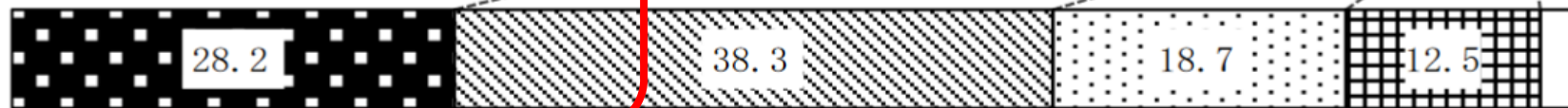
家庭 (親せきの家を含む)



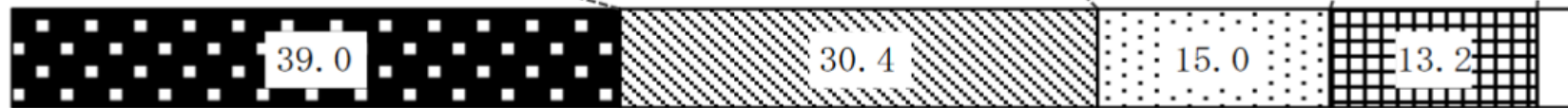
学校



地域 *1



インターネット空間 *2



日本の若者が置かれている実情(その4) 子ども若者インデックスボードから

どこにも居場所がない

2016年 3.8%

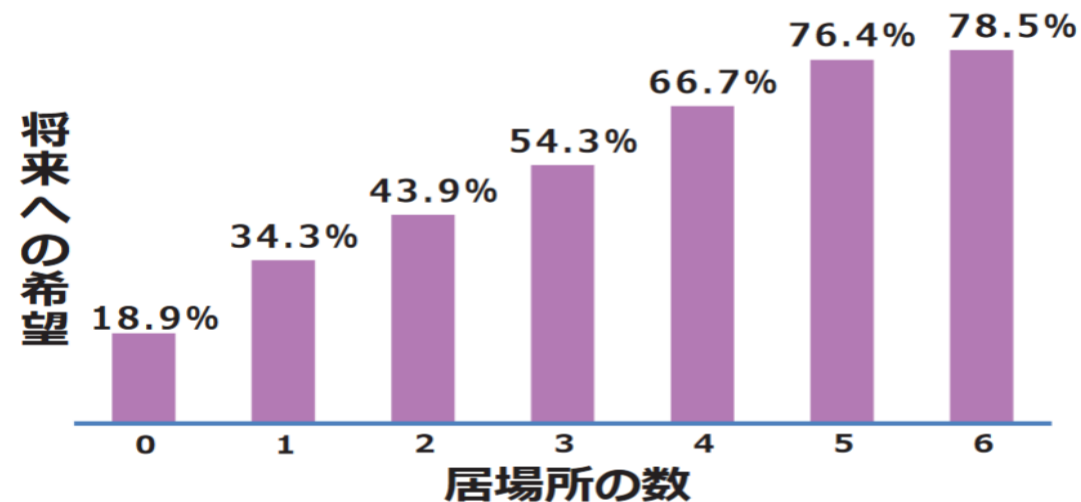
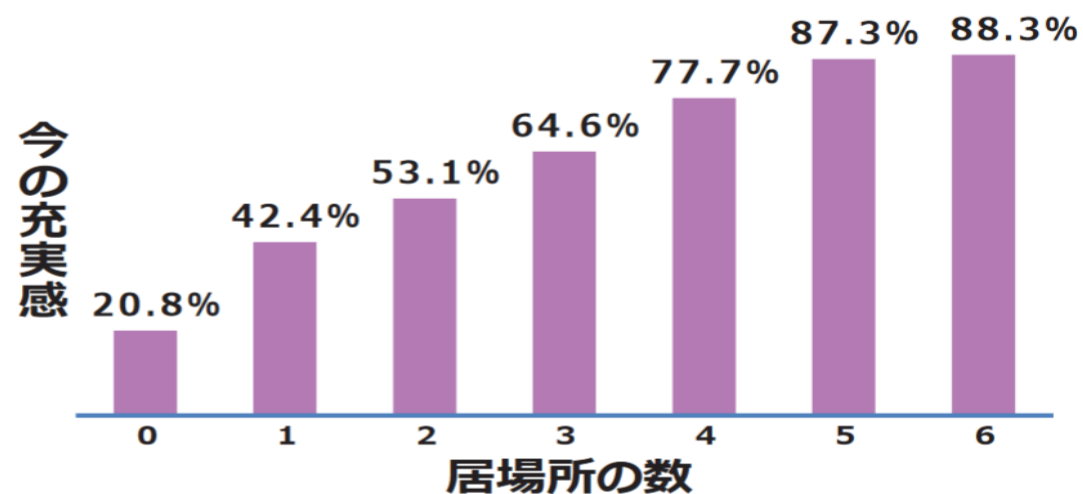
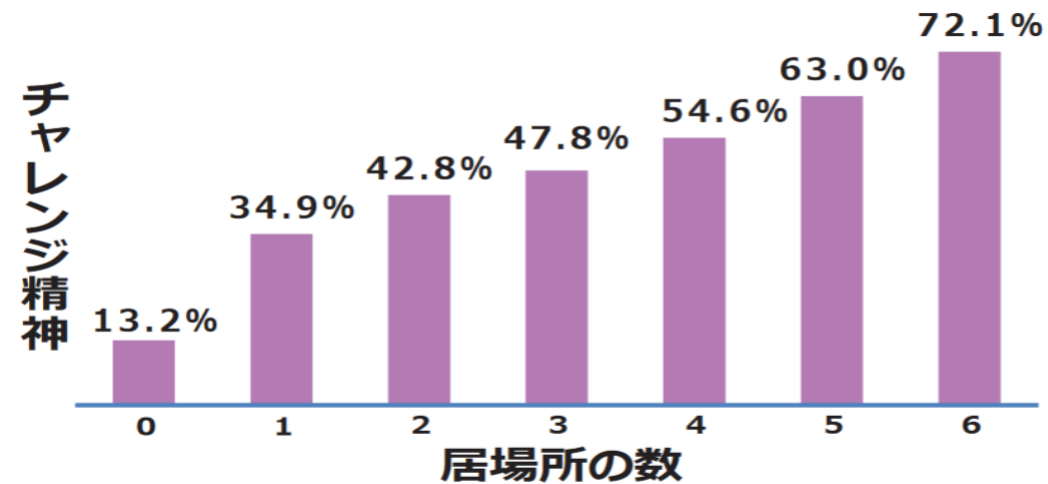
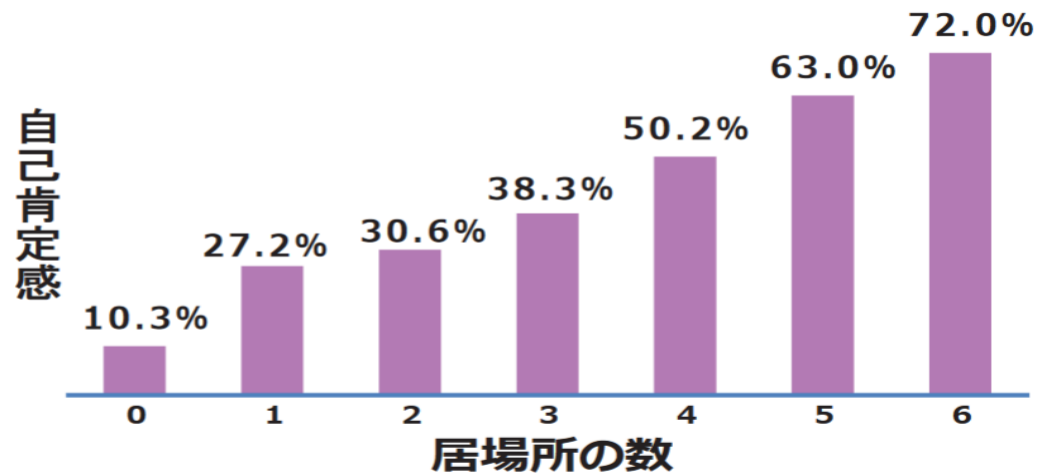
2019年 5.4%

どこにも相談できる人がいない

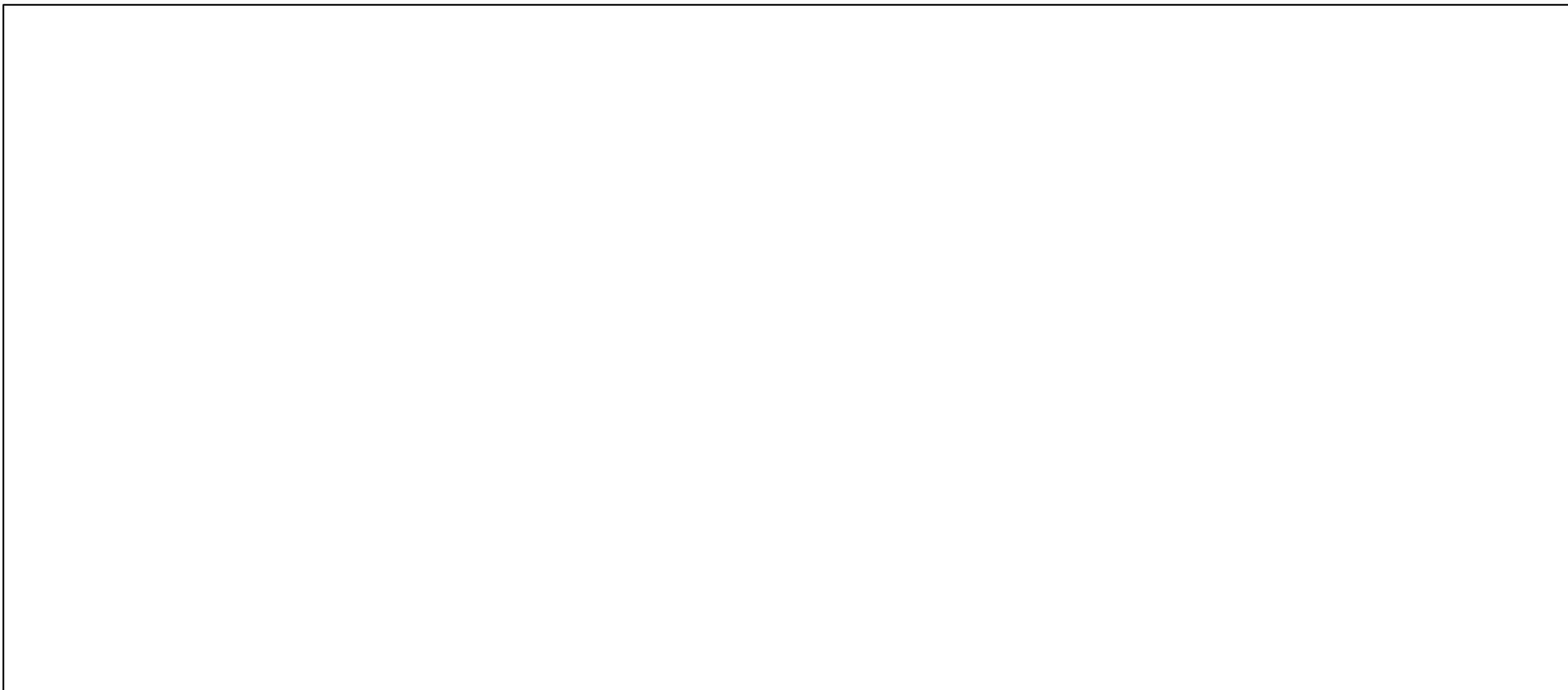
2016年 23.1%

2019年 21.8%

居場所の数との相関・・・



居場所の数との相関～この図の意味することは？～



日本の若者が置かれている実情

1. 若者の社会生活における学校の比重の大きさ

- ◆「先」へと追い立てることと同調圧力・異質排除 (by南出)
 - 「良い将来」につながることに価値がある(?)
 - 「スクールカースト」の存在といじめ
 - 「生きる力」と学力の両方で縛られる
 - 生徒指導と人権 (髪の毛の色は? / とんでもない校則)
- ◆学校外での生活すべてへの浸潤

2. 学校外の子どもや若者

◆居場所はあるか？

- 小学生には学童保育や児童館があるが・・・
- 部活が放課後の「居場所」？
- 中高生の「放課後」＝「一人でいる」率が中2で12%
- 家と学校(と塾)の報復で過ごす地方の高校生

◆学校(高校等)から卒後へのつながりの必要性・・・

- 18歳成年制をどう考えるか！

3. 学卒後の若者(子ども・青年期にとどまらない生きづらさ)

◆居場所はあるか？

- 学校という拠点が無くなって、それぞれが「居場所」を見つける必要

◆中退すると社会資源がほとんど無い

◆働く場／働き方の問題

- 雇用の不安定さ／上がらない賃金

◆「自己責任」という嘘(?) 罨(?)

- 「自分で選んだのだから・・・」

◆若者の孤立と分断

- 大卒・非大卒／正規雇用・非正規雇用／都市部・農山村部

ユースワーク(ユースサービス)の考え方と日本への紹介

◆日本への紹介と普及

- 1960年代以降何度かの波
- 神戸・東京・京都などで青少年施策に反映される。
- 各地でワーカー養成も試みられた(東京や愛知県で)。
- 中高生の居場所づくりと関連付けての紹介(90年代頃)
- 北欧のユースワークの紹介(2010年代頃)

◆何が特徴(独自性)なのか

ユースワークとは何か・・・

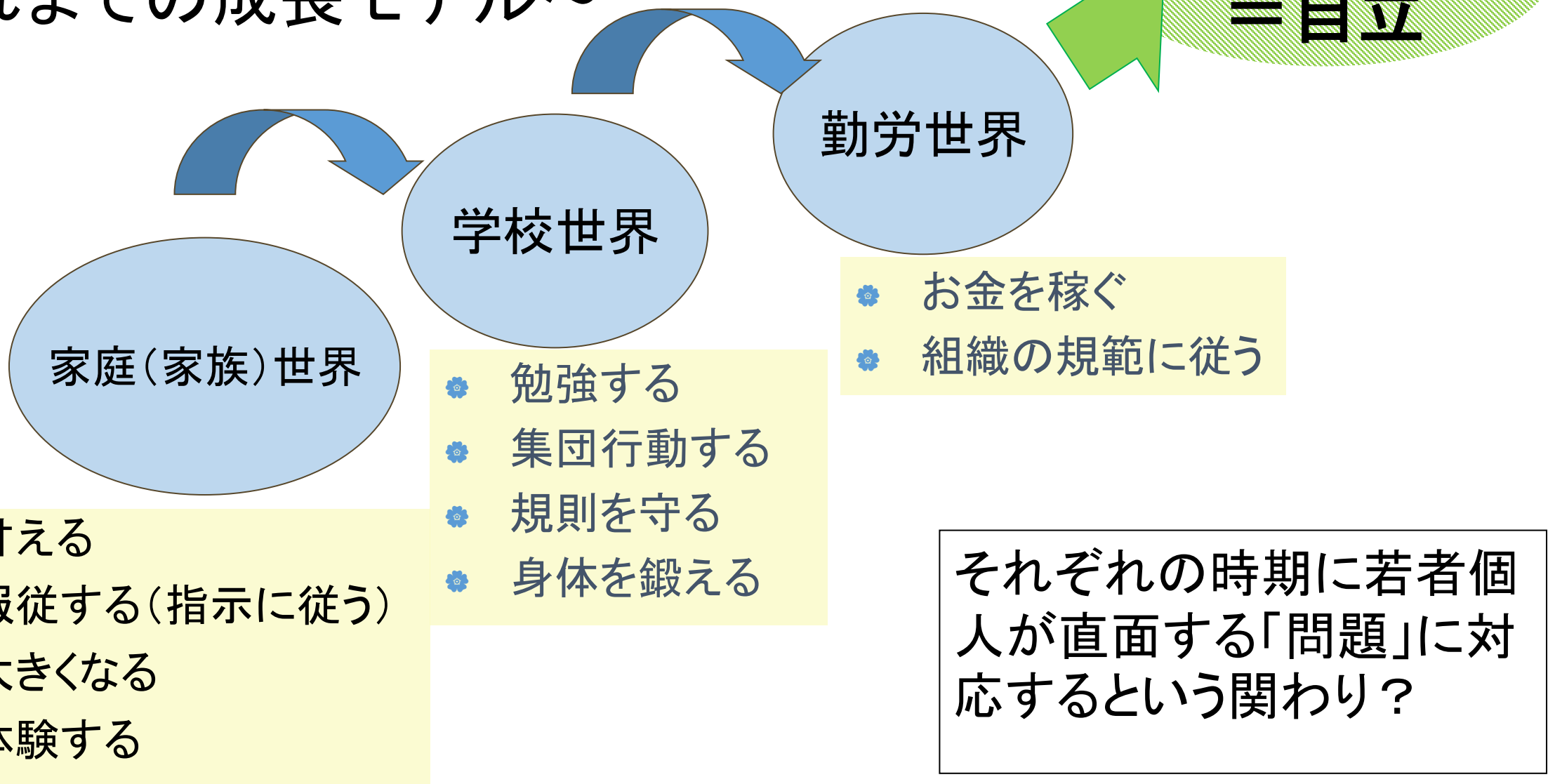
京都の実践をベースにした定義案では・・・

ユースワークは、若者を子どもから大人への移行期にいるすべての人と捉え、若者が権利主体として自己選択と決定が保障される自由な活動の場を若者とともに形成し、若者及び若者と関わる大人やコミュニティ、社会システムに働きかける実践である。

立命館大学と京都市ユースサービス協会の共同研究
「ユースワーカー養成研究会」による

子どもが大人になるとは？

～これまでの成長モデル～

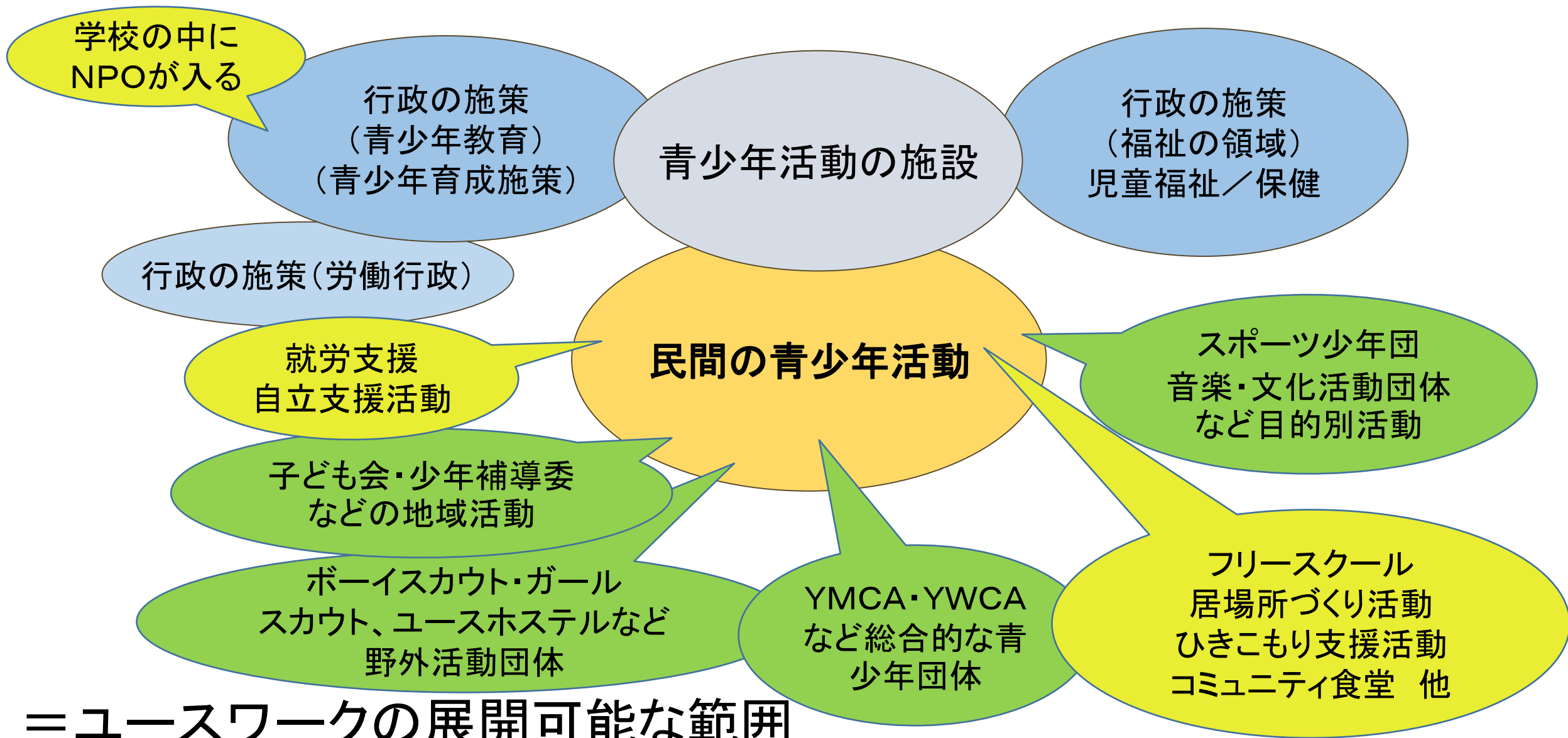


結婚の意思に関する独身者 (18~34歳)の回答結果



※2021年の「出生動向基本調査」を基に作成

日本における若者対象の活動と「ユースワーク」



これまでの関わりの持つ課題や弱さ

- ◆「健全な」「子ども」の活動に偏る健全育成
- ◆子どもや若者の背景にある問題に迫りにくい非行対策
- ◆多くの役割を負わされて疲弊する学校



支援と育成(余暇を守る)施策・活動に架橋する必要

これまでの関わりの持つ課題や弱さ

- ◆施策のベースに子どもの権利条約
- ◆総合的な支援体制を自治体の責任で作るように
- ◆“社会的困難”に直面する若者への支援
- ◆福祉・支援施策と教育・育成施策の間の分断



方法・理念として…

ユースサービス／ユースワークへの注目

ユースワークの実際例

- オープンな場づくりとロビーワーク
- 安心して居られる場づくり「居場所づくり支援」
- アートワーク
- 違う人と出会う
- 地域に関わる・政治に関わる・ボランティア
- 「支援」的な関わり
 - * 学習支援
 - * 個別的な相談・特に課題を抱えた若者への関わり
- アウトリーチ
- デジタルユースワーク
- コロナの中で

ユースワーカーとは・・・？ザクツと言うと

✿ ユースワークの企画や運営に当たる、専門スタッフ

✿ 社会と若者の間で、若者が社会のメンバーとして自立していくことを、若者の側に立って手助けする人

✿ 若者の成長や利益のために、役立てる人

→ 日本でも、ユースワーカーといってもいい役割を果たす人たちが多く活動している！

専門領域の経験を生かして
若者と関わる人

関連する職にあって
若者と向き合う人

プロフェッショナル
ワーカー

ボランティアとして若者と関わる人たち

ボランティア・ワーカーの役割

YW

❁ 若者の近くにおいてさまざまな活動機会を提供する

キャンプ・ハイキング

クリスマス会

あそび

❁ 若者の近くにいる教師、親と別の「意味ある他者」となる

ナナメ関係

親とも教師とも違う
大人

❁ ピアサポーターとしてのワーカー

近い年代／共通の
経験を持った存在

関連した「職場」で働くワーカー

YW

ユースワーカーとしての力量・経験を持った・・・

- ✿ 行政職員／司法や警察のスタッフ
- ✿ 福祉職／養護施設職員／大学職員
- ✿ 公民館職員／学芸員／図書館職員
- ✿ NPO／NGOなど民間活動団体のスタッフ

☆若者と関わる専門機関や団体とのつなぎ役になる

☆若者の利益、若者の自己選択を大事にして関わってくれる

表現活動(アート)を通じたユースワーク

- ✿ 演劇やダンス、音楽など表現活動を通じたワークができる人
＝アートワーカー

思春期保健とユースワーク

- ✿ 養護教諭や保健師、看護師など

スポーツやレクリエーション活動とユースワーク

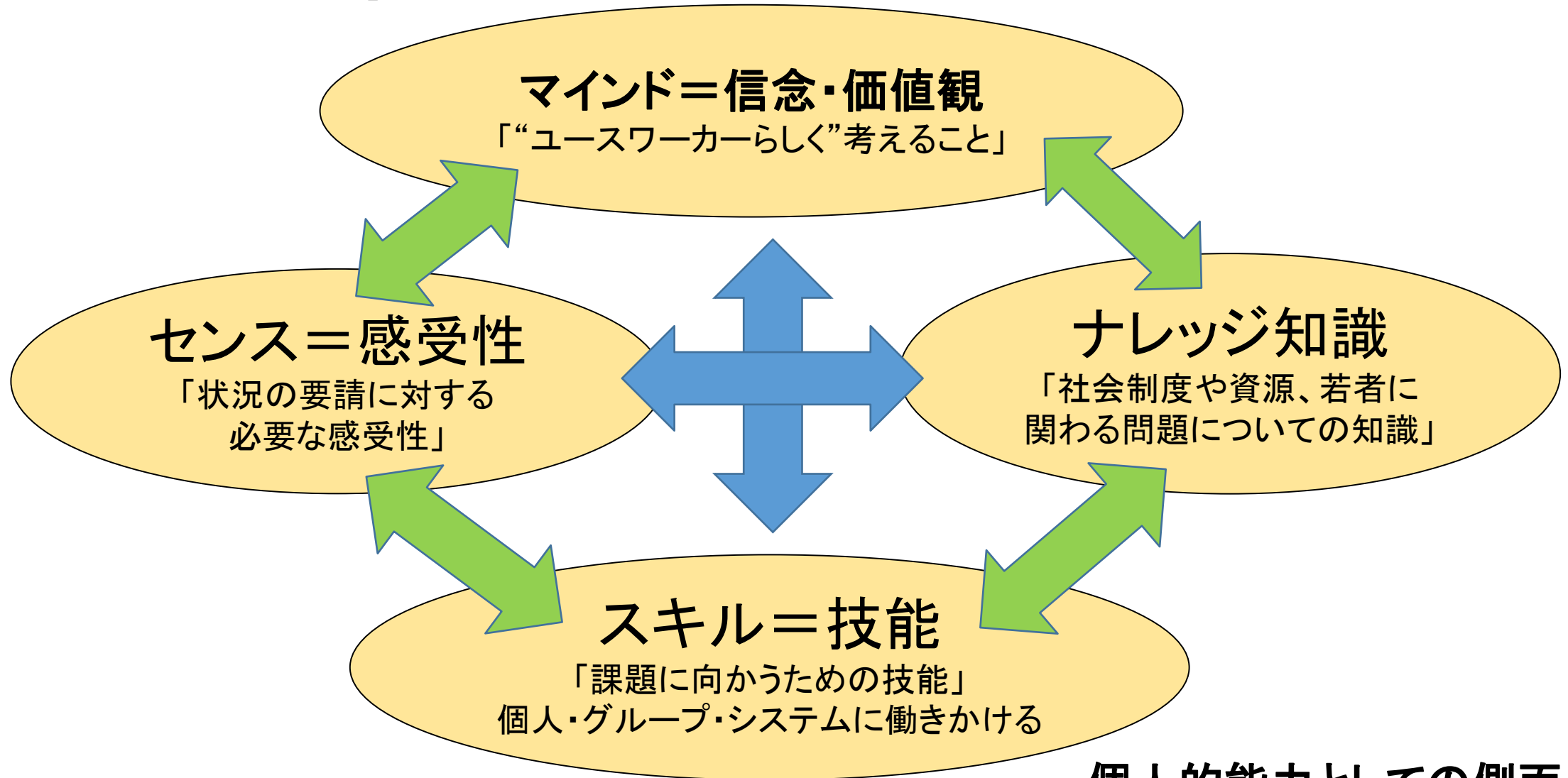
- ✿ スポーツ活動のコーチ、レクリエーションのコーディネーター

プロフェッショナルな ワーカーの役割

YW

- ✿ ユースワークの<場>を作り、維持・マネージメントする
- ✿ 若者に関わるさまざまな営みや資源をコーディネート(媒介)する
- ✿ ワーカーやスタッフ、ボランティアを育てマネージメントする
- ✿ 社会システムに働きかける
 - = 若者が生きやすい社会づくりに向けて他のアクターと共同する
 - = 若者ととともに、若者の参画を促す
 - = 若者政策の具体化に働きかける

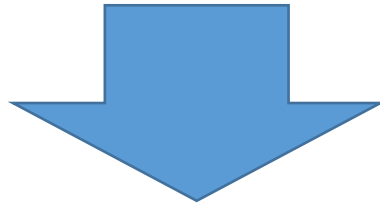
ワーカーの専門的能力



個人的能力としての側面

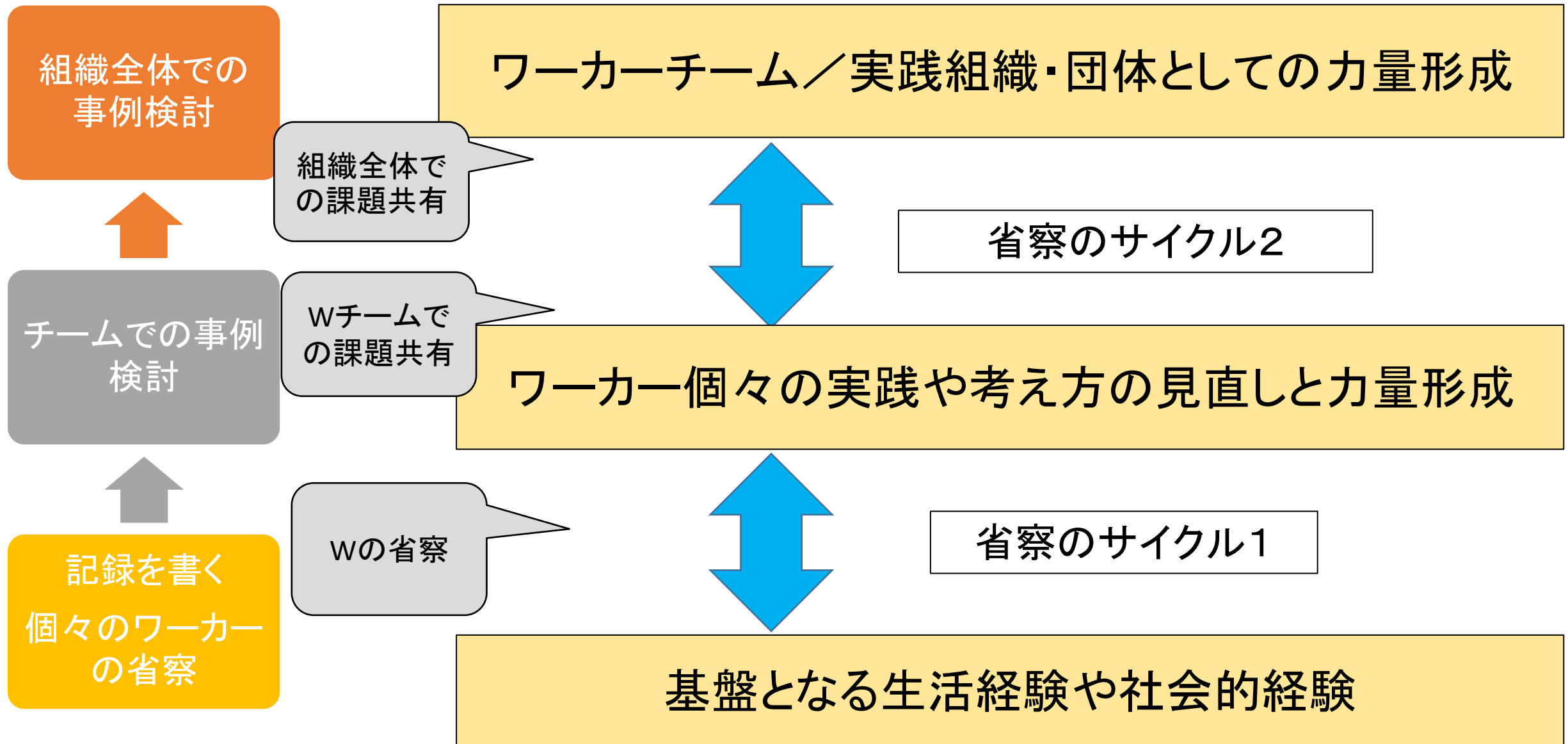
ワーカーの力量、どう身につけるのか？

- ◆ 全く同じ状況は訪れない
- ◆ パーソナリティを使って関わる仕事
- ◆ 「実験」や「反復練習」ができてにくい……



- ◆ 体験学習の方法を通して学ぶ
- ◆ 自他の実践を通して学ぶ
 - 実際にやってみる
 - 実践記録や事例検討を通して学ぶ

ワーカーの専門的能力と事例検討



- ◆ 実践しそれをふりかえり続けることが大事。
- ◆ その際に記録すること、事例検討することが有効。
- ◆ 実践の中で起こっていることを「言葉」にし価値づける。
- ◆ 同僚やチームで共有する＝集合的な知恵へ！
- ◆ 自らやチームの判断の前提まで吟味していく。
- ◆ 実践したことがユースワークの価値観に添っているか？確かめる。

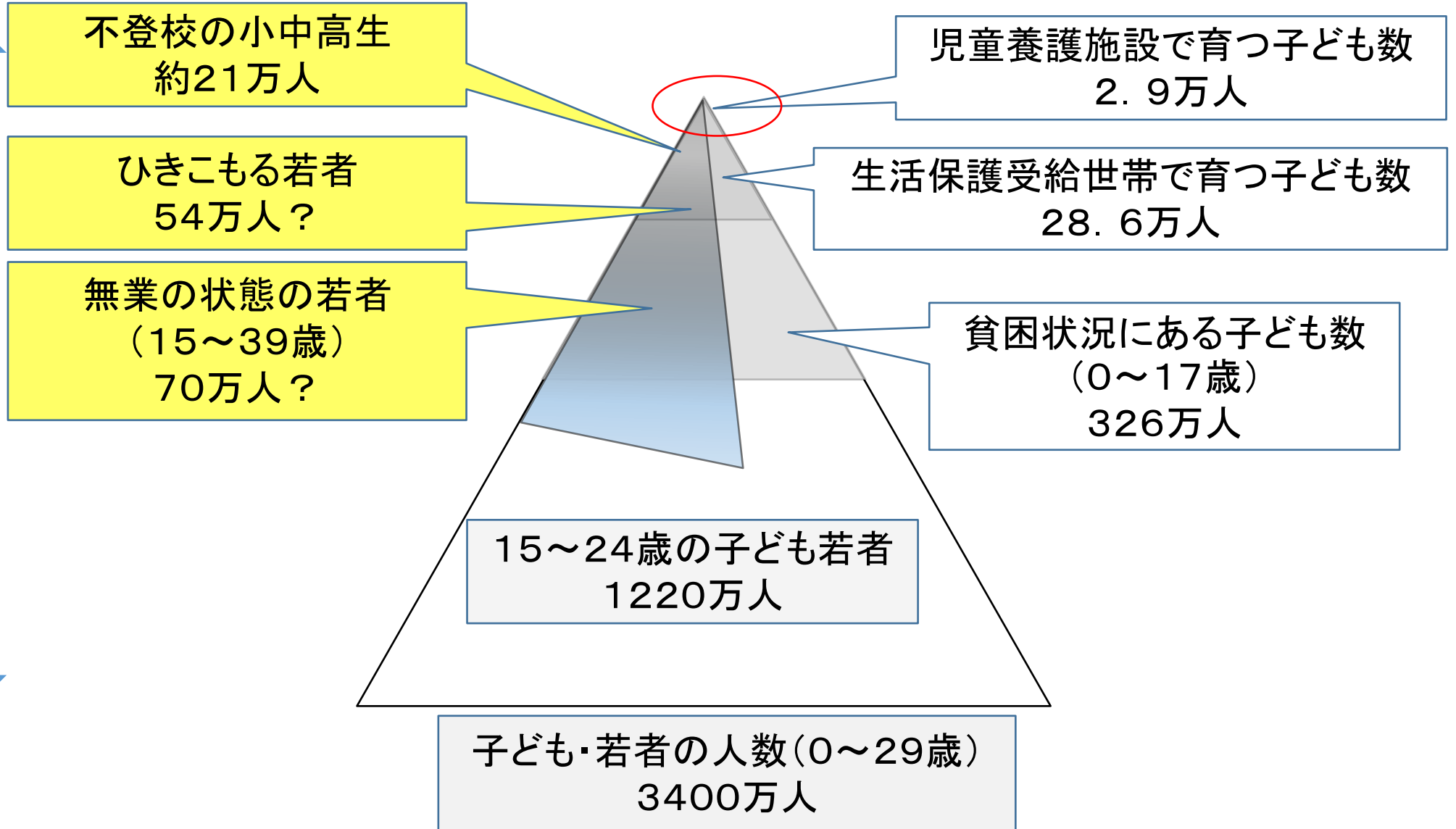
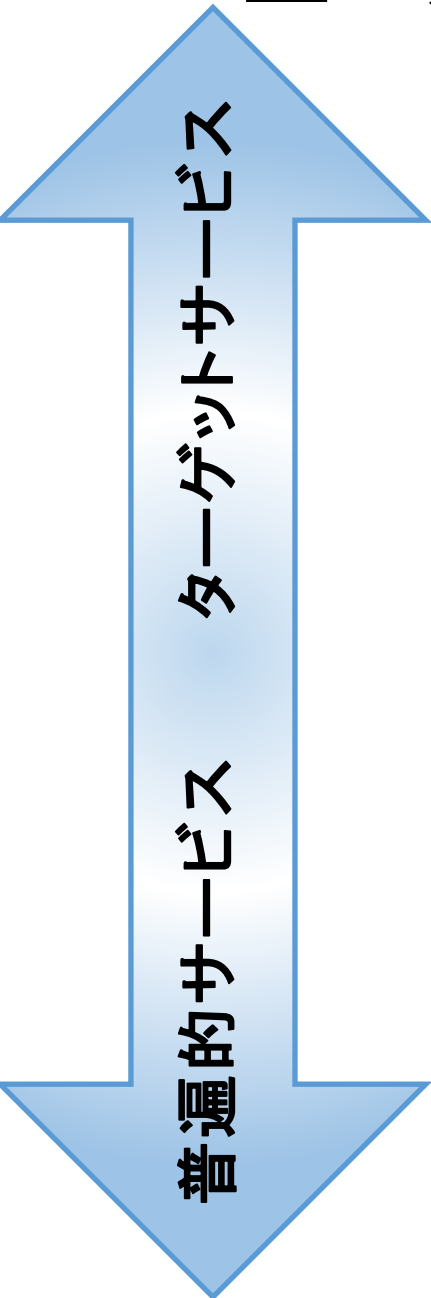
→それまでより“少し”力がついて、良い実践を目指すことができる！

普遍的なサービスか課題別の支援か？

- ◆ 「対象」は課題別の子どもや若者であっても、ユースワークとして関わる！
- ◆ ターゲットワーク(支援的) ⇔ ユニバーサル(教育的)という区分ではない。
- ◆ ユースワークは(原則的に)「社会問題解決」を目的としない！

ユースワークの対象者ピラミッド

普遍的なサービスか
課題別の支援か？



ユースワークの独自性とは～その大事にしているものから～

- ❁ ユースワークは体験から学ぶ活動や「場」を重視している。
→カリキュラムを持たないか重視しない…
- ❁ ユースワークは若者の「余暇」に関わる。
→第三の領域・生活世界という言い方もある…
- ❁ ユースワークは若者が関心を持って自ら参加することから始める。 →自己選択の重視…
- ❁ ユースワークはあらかじめ「達成目標」を設定しない。

大人社会の
側から…

ユースワークの（共通）価値観・目標観

	基本的な価値観		ワークの目標
1	個々の若者の固有性を価値あるものとしてとらえる	➡	個々の若者の持つ力を尊重しながら、それが引き出されるようにする
2	信頼関係づくりから始める	➡	若者との間に信頼と共感という基盤を形成する
3	若者の自己決定を尊重する	➡	若者の選択肢を増やし、自己決定の能力を培う
4	他者との関わりと、集団の中での学びのプロセスを大事なものとする	➡	若者が社会の中で生きていく力を身につけていけるようにする
5	すべての若者への機会と場を保障できるようにする	➡	すべての若者への学びと成長のための機会と場を保障する
6	若者が所属するコミュニティや社会全体の正当な一員として位置づけられる	➡	若者を受け容れるコミュニティをつくる

子どもが社会の人になる！

ユースサービス・ユースワークが目指すこと

